

酒々井町郷土研究会々報

第44号

昭和62年4月1日
発行
酒々井町郷土研究会
総務部

会長就任にあたって

会田 秀雄

去る一月二十四日の定時総会時の役員改選に於いて、相京会長が辞任され、不肖私が後任を務めることになりました。

前会長は十年の永きにわたり諸事業の発案計画等を成し遂げ、今日の郷土研究会を生み育ててこられました。その辛苦たるや誠に敬服の至りでありませう。一口に十年と申しますが、その間のご苦勞は如何ばかりと推察されます。長い間本当にありがとうございました。

今後は役員の方々並びに会員皆様のご指導をたまわり、微力ながら会発展のため努力致し度いと思つて居りますので何卒よろしくお願い致します。

最後に相京前会長始め会員の皆様のご健勝を祈念申し上げ、挨拶と致します。

会長退任の御挨拶

相京 晴次

酒々井町地方史研究会が、昭和四十六年に創立されて、全町内の古文書調査と文化財調査をすすめたわら、史跡見学会などを催しておりましたが、この会は専門的でありましたので、この会は僅かでありました。

又平に

さぶやちを

花さうり

きつお



昭和五十年、町史編さん室が開設されて、町民の多くの方々に町の歴史や文化財を理解して戴くとともに協力をお願いするたために、五十二年に地方史研究会を発展的に改組して誕生したのが郷土研究会であります。それから十年経ちました。

郷土研究会は会報を定期的に発行して、一般町民を対象とした史跡見学会、史談会、野草観察会など各種の事業を行つて参りました。このことが新旧住民に浸透して会員が激増して郷土研究会花盛りとなりました。昨秋は役員諸氏の尽力によつて十周年記念文化展を開催して成功をいたしました。この間、会員各位の御援助によつて会長を勤めさせて戴いて参りましたが、昨春より体調をくずして諸事に意に任せず、また老齢八十年を機会に退任を願ひ、今後は一会員として楽な立場からの参加を念願いたしております。永年に亘る御助力を深謝するとともに、新会長、新役員によつて清新な郷土研究会として益々発展することを祈り、退任の御挨拶といたします。

副会長退任の御挨拶

金杉 智恵

昭和五十二年一月二十三日郷土研究会が発足、私も会員百七名中の一人として参加させていただきました。

行事の古文書学習会、石仏調査、石仏めぐり、野草の会名勝探訪、文化財愛護、町内史跡めぐり、県内見学会、一泊見学会等々、年を重ねる程に郷土研は私の生甲斐となつてまいりました。尚五十八年には、かすらも副会長を拜命致しましたが、微力の為の発展向上に何らお役に立てず、足手まといになるばかりでございまして、この一月の総会を期に退任させていただきます。この間、相京会長様を始め、会員の皆様方には一方ならぬ御協力をいただきました。誠に有難うございました。六十二年度からは新会長様並びに新副会長様方の御指導のもとに一会員として命のかぎり参加させていたたくつもりで御座います。何分よろしくお願い申し上げます。

退任に当り皆々様に重ねて御礼申し上げます。御協力有難う御座いました。

総会報告

昭和六十二年郷土研究会定時総会が一月二十四日(土)中央公民館講堂に於て開催されました。

昭和六十一年度事業報告、同決算報告、昭和六十二年度事業計画案(別記)、同事業予算案が承認され、役員改選に伴い新役員(別記)が選任されました。

尚、郷土研究会以来十年間、会長としてひたすら会をもち育て、今日あるよう御指導下さいました相京晴次氏と副会長金杉智恵氏が退任され、会より感謝状と記念品が贈呈されました。

両氏には退任後顧問として御指導いただくことになり、新会長には

会田秀雄氏、副会長には沖田善三郎氏、青木朝次氏、田村直子氏が就任されました。

総会終了後、文化映画「房総路をいく」成田道一「自然との出会い」の二本が上映され、「房総路をいく」映像中、酒々井木村茶店の看板や家並が、また伊藤の在りし日の緑濃き杉並木が映しだされ、感入でした。

出席者は委任を含め二百三十五名で盛会裡に終了しました。

郷土研究会 62年度役員名簿 S.62.1.24改選

Table with 2 columns of member lists. Left column: 役員名, 氏名, 地区住所, TEL. Right column: 役員名, 氏名, 地区住所, TEL. Lists include 会長 会田秀雄, 副会長 沖田善三郎, 青木朝次, 田村直子, 監事 福田豊吉, 石渡朝次, 会計 青木喜作, 鶴岡知子, 木村幸子, 委員 中村寛, 那須八郎, 御厨萬一, 筋玉子, 石渡一郎, 藤崎房枝, 上田悦子, 子安とよ, 京増忠太郎, 藤川正美, 中野敏子, 増川房子, 小別当光, 白石栄子, 山内晨一, 田中松美, 岡田文子, 広井久次, 福田せつ, 古川国雄, 富沢勝, 相京正明, 川島重利, 高橋喜重, 田丸卷子, 宮内幸江, 遠藤梅子, 福田照子, 木村千里, 金杉智恵, 磯山清一, 寒那義一, 江沢武夫.

昭和62年度事業計画

Table with 2 columns: 事業名, 説明. Lists activities like 町内史跡めぐり, 県内史跡見学会, 県外史跡見学会, 1泊史跡見学会, 史談会, 神社石仏調査, 町内石仏めぐり, 野草観察会, 名勝探訪, 郷土史講座, 史跡文化財愛護活動, 会報発行, 運営委員会, 総会.

郷土研日誌

Table with 3 columns: 月日, 内容, 参加者数. Lists dates and activities like 総会準備役員会, 名勝探訪, 総会, 石仏調査, 古今伝倉真佐子と読む会, 七草粥, 石仏調査並見学会下見, 経費予算関係役員会, 古今伝倉真佐子と読む会, 2.4半期役員会, 本任倉城跡見学会.

七草粥-見学会会計報告

Accounting report for 七草粥-見学会. Includes 収入 (500円 x 74 = 37,000円), 支出 (材料費 28,410円, 食器代 20,000円, 予 48,410円), 会より補助 11,410円. Total 差引残 20,320円 郷土研へ.

郷土研会費

毎一年一月日か

ら十二月三十日

までを一ヶ月と

し、年会費は

一〇〇〇円です。

総会当日徴収

しております。

未納の方は最

寄りの役員宅

までにお届け

下さい。

退会を希望さ

れる方は、役

員が、会田秀

雄(TEL 961-886)までご連絡下さい。

酒々井町植物余談(一)

木本 氏幹

昭和六十年夏から六十一、年春まで、酒々井町の植物を佐倉野草会の有志と共に調べさせていただきました。

昨年春には本佐倉でジロボウエンゴサクとタニギキョウが道路わきに群生し、キブシが淡黄色の鈴のような花を吊り下けているのを見て、酒々井町は自然が豊かななと感激しました。



エンゴサク

成田市三里塚にあった御料牧場から逸出した帰化植物もあるはずと可なりていねいに探したのですが、富里村史にも載っていないハリヒメハギやキバナノマツバニンジンを見ることができず、キキョウソウもないと思っていたら、最後に役場内の相京



キキョウソウ

さんの部屋の窓の下に生えていることを知りました。

佐倉では京成沿線にあればほとんどはびこっているアレチウリが酒々井にはまだ入っていないらしく、いつ侵入して来るか気が掛ります。



アレチウリ

その外、行方さんが採集しておられるイシミカワや、どこにもでもあるはずのフタバハギも発見できませんでした。



イシミカワ



フタバハギ(ナンテンハギ)

もし、これらに気づかれた方は、ぜひ、相京晴次さんまでお知らせ下さるようお願いいたします。

文化財便り

相京晴次

長福寺の仏像

長福寺は上岩橋字室作にある真言宗の無住の寺院であります。その本尊の木造阿彌陀如来坐像と木造持国天・多聞天立像の三軀の仏像が去る三月三日に県の文化財の指定をうけました。阿彌陀如来と持国天は平安時代末期の作、多聞天は鎌倉時代の作で、それぞれ優れた作品として指定されたものです。



県指定 木造阿彌陀如来坐像

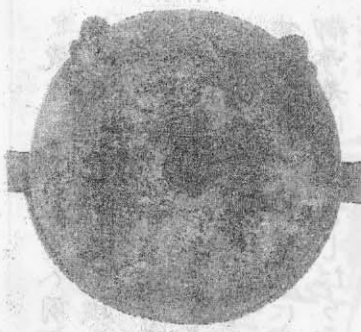
発見されたものです。この鰐口は直経三〇センチほどの鉄銅製のものでありますが、表面に

「下総国印東莊墨郷勝福寺常住鰐口、千時明應九年庚申三月一日 旦那正印敬白」の銘文があります。これによりまずと、墨郷には勝福寺という寺院があったわけですが、この寺号は古文書や言い伝えにもない、まぼろしの寺院です。出た場所は字広畑で、付近には六所神社、ゆづがけ城跡、古沢城跡や廃寺となつた正法院(長修山法輪寺)跡などがあります。

紀年銘の明応九年(一五〇〇)は本任倉城主二十代の子葉介孝胤の時代であり、この地区には有力な家臣が城居しており、勝福寺はその菩提寺であったと推察されます。この鰐口は中世の墨郷の歴史を憶いものとして、また文化財としても貴重であります。

勝福寺の鰐口

鰐口は神社や仏閣の堂前に吊す金属製の法具で、布で編んだ綱を振って打ち鳴らすものがあります。勝福寺の鰐口は、ちよつとした機縁によって、墨郷の江沢勝二さん宅で去る二月に



墨郷勝福寺鰐口

長南・茂原方面見学記

梅の香につつまれて

秋山 政子

郷土研県内見学会A班はまだ二月というのに四月かともかう暖かな小春日和に恵まれて、長南・藻原方面へと出発致しました。

会田会長の御挨拶又説明を聞きながら車窓に目を移せば、今年は例年より十日も開花が早いという梅の花がごんさんとふりそそぐ太陽の光を浴びて満開に咲き競い、旅の目を楽しませてくれました。車内は和気あいあい。同じ町内に住みながら、初めてお会いした方々とも何十年来の友達のような親しみを感じます。

バスは昔徳川家康が鷹狩りに通ったという御成街道へ、船橋から東金に至る三丁と料の道路は別名一夜街道ともい、短期間に完成された軍道との説明を聞き、戦国の昔を思ひどんなにか大変な事だったろうと思わずにいられます。又、東金街道には將軍が鷹狩りの折、休息に使用されたというお茶屋御殿の跡があり、今もその周囲にはやげん堀という堀跡が残っています。亦、愛染山延命寺金光院は家康との関係も深い寺であったとのこと。寺定の西界曼荼羅や珍しい武蔵型板碑等を拝観しました。廊下の天井には、当時の住職が使われたで

あろう古びたおかが大切に吊されていました。次に訪れた長柄小里村には、私達を迎えてくれるかのように満開の梅林に数々の変わった花が咲き競い、晴れ晴れとした青空に素晴らしい香りをただよわせていました。昼食は、豪華な庭園を眺めながらの会席料理で一同御満悦。次の報恩寺は長徳二年(九九六年)建立の真言宗の寺、本堂には木造阿彌陀如来坐像が祀られてあり、遠い昔鎌倉時代の作

という梵鐘も今は珍しく残されております。次の鷲山寺では、元禄十六年の大津波による被災者の供養塔などを参拝しましたが、知らない町の歴史を詳しく説明してくださる役員の方々に深く感謝しつつ帰途につきまして。

いつも元気で

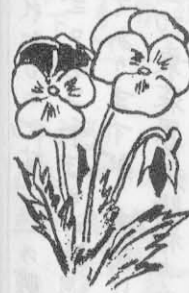
酒々井駅前団地は住む環境に申し分なく、特に排水溝を直



接放流する設備が整っている好条件の処は他にないというところで、永年住みなれた都会がうここへ移り住んで八年の月日が過ぎました。初めはあまりに静かで松林を眺めてただぼんやりと暮らしておりました。ある日老人会からお誘いがあり、お近くの方々ともお友達になれて楽しい日が多くなりました。秋の文化祭には謡曲のお仲間にも入れて頂き、以来同好の方々も週一回の集りをつづけております。又郷土研究会にも入会出来まして、泉内の名所旧跡、珍しい昔の宝物、建築物などなどを見学させて頂いております。わけても房総の海沿いの景色は湘南とは別の静かな趣きがあつて素晴らしいと思ひます。次は何処へと会報の待たれる今日この頃でございますが、ふと我にかえったとき、つくづく越し方をふりかえつてよくもあきもせず病気もせず、ここまでたどりついたことと感謝しております。

先日、上総一宮へ同好の方々と旅のお供をさせて頂きましたとき、長寿の秘訣と申されて聞いてまいりました十ヶ条を會員の皆様におつたえさせて頂きます。御長寿に御健康に少しでも御参考になりましたら幸いです。

- 一、睡眠時間は七時間。
- 二、三度の食事を正しく取る。(腹八分)
- 三、タバコは止めろ。酒は適当によし。何時でも止められる程度。
- 四、標準体重を保持。
- 五、老後の貯え有る事。
- 六、老勉老働をすべし。
- 七、心は平靜に保て。
- 八、老性を楽しむべし。
- 九、異性の友を持つ。
- 十、老年になるほどおしゃれになれ。もったいないと古いものを使うな。



以上

名所探訪

日本橋界隈を歩いて

青木朝次

今迄点の名勝探訪でしたが、今年は線の街道探訪を計画しました。

街道といえは日本橋が起点、一月二十一日、総勢十五名が日本橋から我等が郷土酒々井迄の成田街道を先人の歩いた道を辿ってみようと、上に下に幾層にも高速道路の走る日本橋に佇つ。お江戸日本橋七ツ(午前四時)立ちと唄われ、お伊勢詣りや大山詣り、そして弥次さん喜多さんも此処を旅の第一歩としたのである。当時は東北は千住に、東海は品川に關所があり、明け六ツ(午前六時)にならぬいと通れないので、日本橋出発四時が習わしであった。家康はこの辺りの茅原を埋めため、江戸城大手口と隅田川を結び運河を掘り、それに架ける橋を日本橋と命名した。

銀貨を造っていた所が銀座で、人形師の住んでいた所が人形町。佐馬詰所が佐馬町。その馬

を供給する所が馬喰町といい、江戸城外堀正門の常盤橋は、「色かえぬ松にそえし東路の常盤の松にかがる藤波」の歌からこの名が出た等等、地名の由来その他いろいろ細かく見て歩き、石町の鐘撞場跡に至る。昔は時計が無かったので鐘を撞いて刻(時間)を知らせた。最初の三ツは捨鐘といつてこれから刻を知らせますよという予報で、そのあと刻の数だけ鐘を撞いて刻を知らせた。現在の鐘は宝永八



年(一七一七)に改鑄したもので、この鐘を造るに当り、付近四百十町の住民から永樂錢一文ずつ集めたが、遠方の人は鐘の音が聞かれないからとて拠出を拒んだりいろいろの事があったようです。

いろいろ述べましたが、先人の苦勞と智慧と厳しい統制の中

での逞しい生活力を見て今昔の感を深くしました。この名勝探訪は日曜日と平日の二回催行しており、毎回二十名余りの参加があります。皆さんも氣樂に参加して先人の歩いた道を辿ってみませんか。

あなたもどつぞ

『古今佐倉真佐子』を読む会

E.S

毎月第一土曜日の午後、郷土研唯一の真面目な企画行事『古今佐倉真佐子』を読む会が行われています。

『古今佐倉真佐子』とは江戸時代、元禄十四年から享保八年まで佐倉藩主であった稲葉候に仕えた渡辺善右衛門さんが、藩主の転封に従って山城の淀に移り住んでから書いたものです。かつて住んだ懐かしい佐倉や近江の出来事、伝説など、酒々井のことも勿論でてきます。例えば勝蔵院のお不動様の首は、仏師が同時に信玄候の像も造っていたため間違えてつけてしまったとか、佐倉近在で牛がいるのは、酒々井で飼われていた三頭だけで、成田参

詣の節は、皆、見物に寄ったとか、本当かしらと言いたくなるような話がいっぱいあります。

相京さん、青木喜作さんと他に誇る優秀な講師陣のもとで、生徒達はワイワイガヤガヤ、とても良い授業態度とはいえます。それでも先生に指されると、「ワー、どうしよう」と大騒ぎしながらも老眼鏡に拡大鏡も総動員して、声張り上げて読んでいるのはほほえましい限りです。

三時になるとおやつタイム。三月ヶ月に一度の割合で実地見学としての遠足があります。三月に予定していた遠足は、皆さんそれは楽しみにしていたのに、まるで坊主のカイもなく大雪。でも桜の花につつまれる四月も又よきかな。



こんな楽しさ一ぱいの会が只今生徒募集中。入会金・月謝なし。おやつ代として金百円也。

郷土研 行 事 案 内

4月～6月

	4 月	5 月	6 月
史談会	4日(土)午後1時30分・中央公民館 佐倉真佐子を読む会	2日(土)午後1時30分・中央公民館 佐倉真佐子を読む会	6日(土)午後1時30分・中央公民館 佐倉真佐子を読む会
石仏調査 (石仏めぐり)	5日(日) 午前9時 中央公民館集合 (雨天中止)	3日(日) 午前9時(石仏めぐり) 中央公民館集合 (雨天中止)	7日(日) 午前9時 中央公民館集合 (雨天中止)
野草の会 名勝探訪	17日(金) 午前11時(中央公民館) 山菜を食べる会 会費500円 定員70名 (申込み受付)4月7日(火)AM10:00 (受付場所)公民館ロビー-PM3:00	10日(日) 午前8時 14日(木)京成酒々井駅集合 東日本橋一順天堂一両国広小路 一関東郡代屋敷跡一柳原土手 一首尾の松一蔵屋敷跡 (雨天中止)	21日(日) 町内史跡めぐりと合流 (雨天中止)代替28日(日)
町内史跡めぐり	6月21日(日) 午前9時00分 国鉄酒々井駅集合 (雨天中止代替 6月28日(日)) 教育委員会共催 町内史跡めぐりハイキング 菊賀神社—長福寺—妙楽寺—上郷青年館(昼食) —駒形神社—白幡神社—浄泉寺—京成宗吾参道駅 お弁当・お茶を持参して下さい (解散)		
県内 見学会	4月16日(木) A班 (木更津方面) 護念山証誠寺—吉祥山光明寺—八剣八幡神社 4月21日(火) B班 4月23日(木) C班 各 35名 申込み受付 4月7日(火) AM 10:00~PM 3:00 受付場所 公民館ロビー 会費1,200円 出発 午前8時30分・中央公民館前 キャンセルは参加日より3日前まで受け付けます		

見学会・山菜を食べる会 申込み受付について

受付日時 4月7日(火) AM 10:00~PM 3:00
 受付場所 中央公民館 ロビー
 申込み金 県内見学会 1,200円
 山菜を食べる会 500円
 キャンセル 参加日より3日前まで受け付け封。
 受付場所 会田秀雄宅 TEL (96) 4861



なご知
られが
る山草
を見学
して帰
ります。

編集後記

暖冬を喜んでいましたのに、三月に入り大雪。さぞかし満開の梅もどきどきしたことでしよう。沈丁花も心なしかしぼんでしまいましたね。
 一月二十四日、無事総会終了。新会長のもと役員一同がんばりますのでよろしくどうぞ。会員の皆様方も種々御意見お寄せ下さい。

飯野陣 果史跡。飯野藩主一万余石の保科陣正貞が築いた陣屋跡、築城当時は四百坪周囲に、堀と土塁を巡らした大規模なもので、後世日本三陣屋の一つといわれた。

内裏塚 東京湾沿いでは最大といわれる前方後円墳、万葉集に詠まれる「木の珠名」の墓ともいわれる。

妙泉寺 鎌倉時代に開かれた禅寺。県文化財の母鐘と銅造阿彌陀如来像がある。

八剣八幡神社 応神天皇・日本武尊を祀る。幕末明治のころこの地方の教育、文化の振興につくした山領田嶺江(八二八)の功績碑がある。

光明寺 木更津駅前であり、切られ寺三郎の墓、双葉山書院、カキの墓、七面堂、浄行堂等がある。

見学会案内

日本橋から佐倉へ(二)
 前回は日本橋界隈から小伝馬町因幡跡まで歩きました。今回はその続きです。京成酒々井から東日本橋まで下車して奥州道の道筋を確認し、それから例の通り道筋の名所旧跡史跡を訪ねながら、浅草の方向に歩きます。順天堂祭祥の地から両国柳橋。浅草見附、首尾の松、御米蔵跡、相模博物館、宗喜殿、駒形堂、殺陣、ここまて来ると江戸時代からの駒形をう、表とろ、うなごの前川がある。丁度昼時です。食後、佐法院庭園、東照宮、六角堂、時の鐘

名勝探訪 5/10 (日) 5/14 (木)

県内見学会 4/16 (木) 4/21 (火) 4/23 (木)